

2018研修分科会開催案内

第10期 | 第5回 | 2018年11月8日

第5回開催案内

日時：2018年11月8日(木)

13時～17時

会場：駒澤大学図書館 3階
ガイダンスルームアクセスはHP (<https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/library/outline-komazawalibrary/access.html>)参照

テーマ：学習支援の観点で電子ブックを考える

Time table

13:00-14:00

講演: 電子ブック①

14:05-15:05

講演: 電子ブック②

15:05-15:20 休憩

15:20-16:00 全体討議

16:00-16:30 交流会について

16:30-17:00

駒澤大学図書館見学



写真は朝日新聞デジタル2018.4.20より

学習支援の観点で電子ブックを考える

第4回は文献提供という観点で電子ジャーナル(EJ)について考えました。EJは出版流通主導で大学図書館は受身状態から始まり、経費や蔵書構成に多大な影響を与えています。一方電子ブック(E-Book)は日本の図書館ではまだ導入が進んでいません*。その要因としては、雑誌はタイトルが種数として括られるのに対し、図書は個別に多くのタイトル数があるという資料の性格が考えられます。辞書のような電子化によって付加価値(検索、軽量化等)が生じるものが先行したとはいえ、一般書のE-Bookは日本ではまだ多くない状況だろうと思います。

膨大な図書の中から何を電子化するか選定が難しい、そこで図書館が学習支援の観点に立って、E-Bookを導入しようという動きが目立ちます。1) 慶應義塾大学メディアセンターが2010年度から2012年度に行った電子学術書利用実験プロジェクト、2) 東大新図書館計画におけるハイブリッド図書館実証実験、3) 関西大学図書館“enjoy ebook everyday”, 図書館以外でも広島大学での視覚障害のある子供たちの学習支援として教科書デジタルデータ閲覧用タブレットの開発など、E-Bookは読者主導で進む方向性が見えるのではないのでしょうか。これらのプロジェクト、実証実験、サービスの試みを皆さんの図書館ではどのように受け止めますか？

もう一つ考える材料として、九州大学の蔵書が中身が切り取られてゴミ箱から発見されたというニュースをご紹介します。裁断された様子から、「自炊」が目的だったように見受けられます。読者主体とはいえ、身勝手な形で表れた事例です。<https://www.asahi.com/articles/ASL4N63PVL4NTIPE038.html#Continuation> 学習支援として読者に資料をどのように届けるか、大学図書館はこれからE-Bookにどう取り組んでいくべきか、一緒に考えたいと思います。

*平成29年学術情報基盤実態調査の6-1図書館資料費では、全体でEJの占める割合が42.1%、E-Bookは1.8%。

事前課題

今回の課題は下記の電子ブック、記事を読んでくることとします。全体討議の時間に意見を述べてもらいますので、学習支援とE-Bookについて考えながら読んでください。提出物はありません。

- 岡本聖, 入江伸. 慶應義塾大学メディアセンター電子学術書利用実験プロジェクト報告: 出版社・学生と大学図書館で創り出す新しい学術情報流通の可能性. 大学図書館研究. 95 (2012), p.33-42
<https://doi.org/10.20722/jcul.94>
- 島田貴史. 慶應義塾大学における電子学術書利用実験プロジェクト最終報告. 情報管理, 55巻5号 (2012). p.318-328
<https://doi.org/10.1241/johokanri.55.318>
- 関西大学図書館電子ブック特設ページ
http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?page_id=35052
または
http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11105922/opac.lib.kansai-u.ac.jp/?page_id=35052#information
- ドミニク・チェン著『フリーカルチャーをつくるためのガイドブック: クリエイティブ・コモンズによる創造の循環』フィルムアート社, 2012
(この本はccライセンスがつけられており、下記のサイトから閲覧することも可能です。
http://filmart.co.jp/wp-fa/wp-content/uploads/2014/05/FCBOOK_2nd.pdf)

講演：電子ブック

①西田和之氏（紀伊国屋書店）

②大熊高明氏（丸善雄松堂）

明治維新以来西洋の書籍を日本文化に輸入したのは書店です。大学図書館にとって本屋さんには重要なステークホルダーです。電子ブックについても、またその活用方法についても、海外の事例を日本に紹介してくれて

いる大手書店さんにご講演をお願いしました。はじめにご紹介した3) 関西大学図書館の“enjoy ebook

everyday”の経緯や成果についてもお話いただきたいと思っています。その趣旨は右図のように書かれています（関西大学図書館電子ブック特設ページより）。

なお、『専門図書館』282号(2017.3)「図書館向け電子書籍のいま」と言う特集が生まれ、両社の取り組みについても書かれていますので入手可能な方は参照してきてください。

About

図書館に行かず、
授業でわからないことを調べたり、
空き時間にスマートフォンで
本を読みたい時ってありませんか？

図書館ではその一助となるよう、
2018年4月1日～9月30日の6か月間、
「紀伊国屋書店」、「丸善雄松堂」と協働して
電子ブックのTrial Readingを行います。

スマートフォンやパソコンを通じて
いつでもどこでも、本の世界へ気軽に
足を踏み入れることができる機会です。

本との出会いは、
人との出会いに通じると言われており、
今後の人生に影響を与えるような1冊と
巡り合えるかもしれません。

またTrial Readingを行うだけでなく、
本や電子ブックに関連する
いくつかの企画も複合的に展開していきます。

是非、この機会に思いっきり
“enjoy ebook everyday”してみてください。

研究会(交流会)について

11月30日(金)午後に東海大学高輪キャンパスで開催されるこの会で、研修分科会の活動報告をします。11/8にその準備をしますので、よろしくお祈いします。

会場アクセス（所要時間）

田園都市線「駒沢大学」駅（渋谷から約7分）下車。「駒沢公園口」出口から徒歩約10分。
渋谷、三軒茶屋、二子玉川、等々力、自由が丘、千歳船橋から東急バスの便あり。

キャンパスマップは、下記のURL参照（図書館の入り口から、研修分科会参加と言ってお入りください。）
<https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/campus/komazawa.html>